

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-510	14-020	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The synergistic effects of alcohol and tobacco consumption on the risk of esophageal squamous cell carcinoma: a meta-analysis. 食道扁平上皮癌リスクのアルコールとタバコの相乗効果：メタ解析</p>		
執筆者		
Prabhu A, Obi KO, Rubenstein JH.		
掲載誌		
Am J Gastroenterol. 2014 Jun;109(6):822-7. doi: 10.1038/ajg.2014.71. Review.		
キーワード		PMID
食道扁平上皮癌、アルコール、タバコ、メタ解析		24751582
要 旨		
<p>目的： タバコと飲酒は食道扁平上皮癌の確立された危険因子である。本研究では、食道扁平上皮癌に対するタバコとアルコールの相乗的なリスク上昇の影響を検討した。</p> <p>方法： 複数の電子データベースを用いて、言語を問わず体系的に文献検索した。適格基準は、タバコ 及び/または アルコールの食道扁平上皮癌への影響を検討した集団ベースの症例対照研究またはコホート研究とした。相乗効果因子(synergy factor: SF)は、食道扁平上皮癌発症の飲酒且つ喫煙のオッズ比を、飲酒且つ非喫煙のオッズ比と非飲酒且つ喫煙のオッズ比を乗じた値で除して算出し、1 より大きい場合に相乗効果陽性と評価した。メタ分析は、変量効果モデルを用いて、統合調整オッズ比と統合粗相乗効果因子を評価した。研究間の異質性はCochran Q 統計量(p<0.10)とI²を用いて評価した。</p> <p>結果： 系統的レビューにて 7,629 編の論文を選択し、うち 5 論文を採用した。タバコまたはアルコールの使用は、非使用に比べて、食道扁平上皮癌のリスク上昇に 20~30%関連し、両方の使用は約 3 倍のリスクを示した。アルコールとタバコ使用の統合調整オッズ比は、3.28 (95%信頼区間(CI) 2.11~5.08; Cochran Q 統計量 P=0.05; I²=55.3%)であった。タバコとアルコール使用の統合 SF は 1.85 (95% CI 1.45~2.38; Cochran Q 統計量 P =0.49; I²=0.0%)だった。</p> <p>結論： たばことアルコール使用は食道扁平上皮癌発症に正の相乗効果があった。食道扁平上皮癌の疾病負荷を制御するには、アルコールとタバコの両方の使用者に焦点をあてるべきである。</p>		